

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／英語に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

・国語の正答率は、全国平均と同等であると考えられます。しかし、問題別に見てみると、「話すこと・聞くこと」領域の「話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問すること」と、「読むこと」領域の「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして考えること」について課題が見られます。

・数学の正答率は、全国平均との比較では、全体的に若干下回っています。また、「理由を説明する」等、記述式の問題について無回答率の高さが目につきます。自分の考え方を表現することに課題があると考えられます。領域別では、「図形」など全国平均と同等の数値を示しているのに対して、「数と式」「データの活用」においては、全国平均よりも低く、課題が見られます。

・英語の正答率は、全国平均との比較では、全体的に下回っています。領域別に見ると「書くこと」領域の「社会的な話題や日常的な話題について自分の考えや理由を記述すること」や「相手の状況を意識した表現を正確に書くこと」についての正答率が特に低く、さらには無回答の割合の高さも課題です。「聞くこと」「読むこと」についても、基礎的な「知識・技能」を身に付ける必要があります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

・本校の生徒は、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるか」等の項目において当てはまると回答している生徒の割合が高く、学習・生活の両面において安心できる環境であり、落ち着いた学校生活を送ることができていると考えられます。

・家庭での学習時間は、山梨県・全国の平均よりも全体的に下回っています。また、学習塾や家庭教師を利用している生徒の割合も低くなっています。以前より、家庭でのゲームやスマートフォンの利用時間が長いことが問題となっており、基本的な生活習慣を見直す必要があります。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

・各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳をはじめとして、日常生活の中で、「言語活動」を意識した活動をより積極的に取り入れ、特に「自分の考えをまとめる」力及び、「自分の考えを発表する」力を育成するように計画していきます。また、ICT機器の利用を授業の中で一層促進し、自ら積極的にICT機器を利用して学習する力や情報モラルに留意しながら利用する力を育成していきます。

・国語では、質問をし合いながら学びを深めていく小グループ学習を設定し、授業で扱う文章について、「どう読み取ったか」ということに加え、「なぜそう読んだか（＝根拠）」を今まで以上に意識させる授業を展開していきます。数学では、基礎基本である「数と式」の指導を継続して取り組み、文章問題の読み取りを含めて、思考力・判断力・表現力の育成に力を入れていきます。英語では、使える知識・技能を育成する活動や、思考し、判断し、表現する機会を多く設定することで「考える・気づく」授業を構成し、話す活動に書く活動も組み合わせることで、書く力を育成します。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習の時間を確保するため、学習する環境作りにご協力ください。
- ・スマートフォンやゲームの利用（ネットモラルを含む）について家族で話し合い、ルールを確認してください。
- ・1日の出来事など、家庭で話す時間を週に一度は作ってください。